

国有林内におけるニホンジカ等の捕獲に関する協定を締結

[南信署]2月14日、南信森林管理署と下諏訪猟友会は、下諏訪町に所在する国有林内におけるニホンジカの効果的かつ効率的な捕獲を進めるための協定を締結しました。

協定は、猟友会が行うニホンジカ等の捕獲を支援するもので、森林管理署は猟友会に対して、①林道ゲートの鍵を貸出し車両での入林を許可、②積雪時には道路の除雪を行い車両の通行を確保、③捕獲用具のくくりワナの貸出、④自動撮影カメラのニホンジカの撮影等の生息状況の提供を行います。

猟友会は、ニホンジカ等の捕獲を行うほか国有林野内で異常(山火事、林道の崩壊、立木の被害、倒木や落石等)を発見した場合は、森林官へ報告を行います。

締結にあたり、久保署長からは、「協定地内には諏訪大社御柱祭の御用材が生育する森もあり、猟友会等と連携して国有林の保全に努めてまいりたい」との発言がありました。続いて中林猟友会長から、「ニホンジカは年々賢くなってきている。ワナを借受け一層の捕獲に努める」との挨拶がありました。また、立会人の青木下諏訪町長からは、「本協定の対象となる国有林は伝統文化の御柱の森や町の水源地として重要であり、地域の自然環境を維持する上でニホンジカ対策が進むことを望む」と取組に期待する発言がありました。



捕獲を行うハンター



貸出されたくくりワナ

協定締結とともに、南信署から猟友会に対し、くくりワナ70個の貸出しが行われました。

協定締結については、地元紙三紙に記事が掲載され地域住民へ広く周知されました。協定締結後には速やかに道路の除雪を行い猟友会車両の通行を確保しました。今後も猟友会や地域の関係者と連携を密にして、ニホンジカの食害を抑止するため個体数調整を進めていきます。

南アルプス食害対策協議会十周年報告会の開催

〔南信署〕2月24日、南信森林管理署と伊那市、飯田市、富士見町、大鹿村、長野県、信州大学農学部で構成する「南アルプス食害対策協議会」の設立十周年記念報告会が伊那市役所で行われ、約60名が参加しました。

この協議会は、ニホンジカの食害により希少な高山植物が無くなった仙丈ヶ岳の「お花畑」を取り戻すため、関係機関が連携しニホンジカの食害対策を進める目的で平成19年に設立されたもので、防鹿柵の設置等による高山植物保護と再生を行ってきました。

報告会では、信州大学農学部の竹田准教授から仙丈ヶ岳でのニホンジカの移動状況について、また渡辺准教授から防鹿柵の設置による植生の変化について説明がありました。

続いて、宮澤局長も参加して行われたパネルディスカッションでは、協議会長の白鳥伊那市長から、各機関の連携により防鹿柵の設置等の対策が実施できたことに対して感謝の意が表せられるとともに、今後は高山帯のニホンジカ捕獲に向けドローン等の最新技術を導入する必要性があることなどの発言がありました。宮澤局長からは、重点的に取り組むべき項目として、①防鹿柵による守りと捕獲による攻めを行うこと、②捕獲への後継者育成と技術開発、③捕獲したニホンジカの有効利用と一般住民へのニホンジカ対策の周知の必要性が示されました。元長谷地区自治会長の中山氏からは、高山帯の異変に気付く人が増えるような啓発活動に取り組む必要があると提言されました。

報告会の後は交流会が行われ、十年間の苦労話や花の仙丈ヶ岳の復活に向けた熱い思いが語られました。

設置当時 H20



設置後 H24



防鹿柵設置後の状況（仙丈ヶ岳 馬ノ瀬）